

## 歩いて調べる「吉田新田の開発」

### 1. 単元名 「入り海を新田にした吉田勘兵衛」

### 2. 単元目標

吉田新田の開発について調べることを通して、地域の発展に尽くした先人のはたらきや願い、工夫や努力について理解し、それによって地域の人々の生活が向上したことを考えるようにする。

### 3. 評価規準

#### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ・地域の発展に尽くした吉田勘兵衛の業績に関心をもち、意欲的に調べている。
- ・地域社会の一員として、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。

#### 【社会的な思考・判断・表現】

- ・地域の発展に尽くした吉田勘兵衛の業績について、学習問題や予想、学習の見通しをもって考え、表現している。
- ・地域の発展に尽くした吉田勘兵衛の業績と地域の人々の願いや生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。

#### 【観察・資料活用の技能】

- ・歴史博物館などを観点に基づいて見学したり、資料をもとに調べたりして、地域の発展に尽くした吉田勘兵衛の業績についての情報を集めて読み取っている。
- ・調べたことから必要な情報を選んで、年表や白地図、作品などにまとめている。

#### 【社会的事象についての知識・理解】

- ・地域の発展に尽くした吉田勘兵衛の業績とそれを実現するための苦心や努力が分かっている。
- ・地域の人々の生活の変化や向上が、人々の願いや努力、先人の働きや苦心によるものであることが分かっている。

### 4. 単元について

吉田新田は、大岡川と中村川、J R根岸線に囲まれた釣り鐘状の土地である。横浜の中心地であるが、遠く離れた地域の児童にとっては馴染みのうすい土地である。また、開発されたのは江戸時代であり、児童にとっては時間的にも空間的にも、距離感があると思われる。そこで、吉田新田の一部を実際に歩いて見学することによって、位置や広さ、現在の様子を実感できるようにし、先人の開発に迫る学習への意欲を高めたい。

吉田新田は、今から350年ほど前の1667年に吉田勘兵衛によって造られた。吉田勘兵衛は、石材や木材などを取り扱う江戸の商人であった。吉田新田の名前は、吉田勘兵衛の苗字からつけられている。

造り方についての細かな資料は残っていないので詳しいことは分からないが、釣り鐘状の広大な入り海を新田にすることは、土木工事に用いる機械などがなかった時代に、大変な作業だったと思われる。工事は、1656年に始まった。翌年、大雨のため堤が流されてしまうが、再び新田開発の許しを

もらって工事を再開し、1667年に完成した。

広さは、約35万坪（115万5000平方メートル。横浜スタジアム約44個分の広さ）にもなり、だいたい5分の4が田んぼで、残りが畑や屋敷として使われた。江戸時代後半には、横濱新田や太田屋新田の埋め立てが進み、そこには今、市役所や横浜スタジアム、中華街などがあるが、現在の地図を見ても、吉田新田の形をはっきりととらえることができる。

この單元では、吉田勘兵衛の願いや当時の人々の思い、工事の方法、工夫や努力、完成後の収穫量の変化などを調べることを通して、先人のはたらきについて考えさせるとともに、現在の横浜の発展にもつながっていることに気づかせたい。





吉田新田の位置

埋め立ての前後



5. 指導計画（12時間）

| 主な学習活動と内容   | 主な資料（●）と教師の支援（◇）等  |
|---|--|
| <p>1. 現在の吉田新田の写真を見て、街の様子について気づいたことを話し合う。<br/>         入り海だったことを知り、感想を出し合う。<br/>         （1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の地図で、新田のあった位置を確認する。</li> <li>・今は、家やビルがいっぱいある。</li> <li>・横浜スタジアムや市役所の近くだ。</li> <li>・地下鉄ブルーラインやJR根岸線も通っている。</li> <li>・釣り鐘型（ベル）のような形のところがある。</li> <li>・350年前は、家が少なくて、緑が多かったと思う。</li> <li>・今は陸のところは海だったなんて信じられない。</li> </ul> <p>2. 埋め立て前や埋め立て直後の絵図を見て、気づいたことを話し合う。<br/>         （1時間）（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舟があるところとないところがある。海の深さが違うのかな。</li> <li>・道がつながっているみたい。舟で行き来していたのかな。</li> <li>・ほとんど埋め立てたんだね。</li> <li>・誰が、なぜ埋め立てたんだろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>こんなに広いところを、誰が何のために埋め立てたの<br/>         だろう。どうやって埋め立てたのだろう。</p> </div> <p>3. 吉田新田の一部を歩いて見学する。<br/>         阪東橋→大堰→堰神社→日枝神社<br/>         横浜都市発展記念館や日本大通り（半島の背の部分）で、<br/>         学芸員の解説を聞く。<br/>         （4時間）</p> <p>4. 見学して分かったことを話し合う。<br/>         （1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あんなに広いとは、思わなかった。</li> <li>・昔は海だったなんて信じられない。</li> <li>・機械のない時代に、あんなに広いところを、誰がどうやって埋め立てたのかな。</li> <li>・埋め立てて、当時の人は、喜んだのかな。</li> </ul> | <p>◇現在、横浜の中心地であることに気づくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●吉田新田の現在の写真や航空写真</li> <li>●横浜市関内地区の地図</li> </ul> <p>◇自分の学校との位置関係をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●吉田新田周辺の地図<br/>             （埋立地を取り外せるようにしたもの）</li> </ul> <p>◇吉田新田の所や横濱新田・太田屋新田の所が全て入り海だったことが分かるようにする。</p> <p>◇埋め立てられる前の入り海を水色で塗り、入り海の形や村、道などにも目を向けるようにする。（床地図を活用する）</p> <p>◇同縮尺の学区地図に吉田新田のOHCシートを重ね、吉田新田の広さを実感的にとらえられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●入り海と埋立て直後の絵図</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>入り海</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>埋め立て後</p> </div> </div> <p>◇吉田新田という名前を教える。</p> <p>◇実際に歩いて見学する活動への意欲を高めると共に、現在の街の様子や広さなどを実感できるようにする。</p> <p>◇現在の様子を話し合いながら、当時の様子を想像し、埋め立ての理由や具体的な方法に目が向くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「吉田新田関連年表」（博物館冊子）</li> <li>●VTR「吉田新田をつくる」<br/>             「吉田新田の開発」<br/>             「吉田新田と勘兵衛」</li> <li>●「吉田新田ができるまで」（博物館冊子）</li> </ul> |

5. 吉田勘兵衛の埋め立てについて調べる。 (4時間)

- ・勘兵衛は、木材と石材の商人だったので、入り海の様子も知っていた。
- ・当時、入り海の周りには、大田村、野毛村、蒔田村、石川中村、横浜村などの村々があった。
- ・人々は、魚介類をとって暮らしていた。
- ・大岡川の水が流れ込むところに丈夫な堤を作る。
- ・堤を両岸に沿って伸ばして行って、入り海を囲んだ。
- ・釣り鐘形の下の部分には大きな堤を作った。
- ・機械がないから、もっこなど簡単な道具を使って、人の力で工事したようだ。
- ・潮よけ堤が流されて、やり直しの工事をしている。
- ・年表を見ると完成まで11年もかかっている。
- ・水門を取り付けたり、沼地を残したりした訳を調べたい。

6. 勘兵衛や村の人々の思いを考える。

(1時間)

- ・勘兵衛は、一度失敗しても、あきらめなかったようだ。
- ・便利な機械はなかったのだから、丈夫な堤を作るのは、きっと大変だっただろうな。
- ・新田ができたおかげで、米がたくさん収穫できるようになった。
- ・漁師さんは、困らなかったのかな。
- ・この場所を埋め立てたから、今のように横浜が広がった。横濱新田は今の中華街のところで、太田屋新田は今の横浜スタジアムや横浜市役所のあるあたりだ。

新鑄 (しんせん) 横浜全図 開港資料館所蔵



●吉田新田堤普請作業風景想定模型

(博物館 常設・近世)

- ◇自分だったらどういう順番で何をするかを考えさせることで、埋め立てに必要な作業が何かをイメージしやすくする。
- ◇絵図や堤工事模型を細やかに観察して、「水門や沼」「大堰や中川」「堤や潮除け堤」「橋」などの位置関係から、単に大量の土を入れて埋め立てたというよりは、海水を干上がらせた工法(干拓)で作られたことが想定できるようにする。



- ◇勘兵衛や村の人々(農民・漁民・村を通る人など)の思いや生活向上の願いに気づけるようにする。

- 「吉田新田の周りの村でとれる米の量」
- ◇堤工事模型から、塩分がしみ込まないよう「粘土」を用いたことを伝えたい。
- ◇現代に生きる自分たちはどう思うか、話し合うことによって、「先人の開発」について深く考えるようにしたい。

●明治初期の関内地区の地図

横濱新田(現在の中華街付近)や太田屋新田(現在の横浜公園や市役所付近)の埋め立てとの位置関係がわかるようにする。

6. 本時目標

入り海の絵図や埋め立て後の絵図を調べて、埋め立て前の様子や埋め立て直後の様子について話し合い、吉田新田の埋め立てについて調べようとする意欲をもつ。

7. 本時展開 (2 / 1 2)

| 主な学習活動と内容  | 主な資料 (●) と教師の支援 (◇) 等  |
|--|--|
| <p>1. 埋め立て前の入り海の絵図の海の部分を水色で塗り、埋め立て前の様子について分かったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔は、鐘のような形の海だった。</li> <li>舟が描かれているところと描かれていないところがある。海の深さが違うのかな。</li> <li>道がつながっているようだ。舟で行き来していたのか。入り海の向こう側に行くのが大変そうだ。</li> <li>周りに村がある。人は何人ぐらい住んでいたのかな。</li> </ul> <p>2. 同縮尺の学区地図の上に吉田新田を水色に塗ったOHCシートを重ね、吉田新田の広さをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入り海は学校の周りの土地が全部入るほど広いのか。</li> <li>こんなに広いところを埋め立てようと考えたのは、誰だろうか。</li> <li>入り海のままでも、よかったのではないか。</li> <li>入り海をどうやって、土地にしたのかな。</li> </ul> <p>3. 入り海の絵図と埋め立て後の地図を比べて、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋め立ての前と後では、形がほとんど同じだ。</li> <li>陸に沿って2本の川を作っている。</li> <li>真ん中にも新しく川を作っている。</li> <li>土地が四角に細かく区切られている、どうしてか。</li> <li>海が少し残っているがわざわざ残したのか。</li> <li>沼が残っているがなぜ全部を埋め立てなかったのか。</li> <li>簡単には完成できなかったがどれ位かかったのか。</li> <li>土はどこから運び、どんな道具を使ったのか。</li> <li>今も海のままだったら、横浜の景色は今と違う。埋め立てなくてもよかったのではないか。</li> <li>埋め立て地ということが、今でも分かるのかな。実際に行って、見てみたいな。</li> <li>広くて、歩くのに時間がかかりそうだ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>こんなに広いところを、誰が何のために埋め立てたのだろう。どうやって埋め立てたのだろう。</p> </div> | <p>●「吉田新田埋立以前横濱図」</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>◇入り海の形や舟、周りの村、道にも目を向けるようにする。</p> </div> </div> <p>●同縮尺の学区地図と吉田新田を水色に塗ったOHCシート</p> <p>◇身近な場所と比べることで、吉田新田の大きさをとらえやすくする。</p> <p>●埋め立て前と後の地図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">入り海の絵図      埋め立て後の絵図</p> <p>◇気づいたことや疑問を整理して板書し、次時以降の学習の視点にする。</p> <p>◇実際に歩いて見学する活動への意欲を高めるようにする。<br/>具体的な見学コースについては、次ページ③を参照</p> <p>◇単元を貫く学習問題を作る。</p> |

## 8. 博物館と学校の連携

### ①横浜市歴史博物館の見学

常設展示【近世】資料などで学芸員が解説

模型 吉田新田風景変化模型・吉田新田堤普請作業風景想定模型（50分の1）

パネル 開発前と開発後の吉田新田（図）・吉田新田の風景・大堰・日枝神社など

写真 野毛山側より見た吉田新田 <開発前 開発後 現在>

写真 山手側より見た吉田新田 <開発前 開発後 現在>

解説シート 吉田新田の開発

児童向け「吉田新田ができるまで」

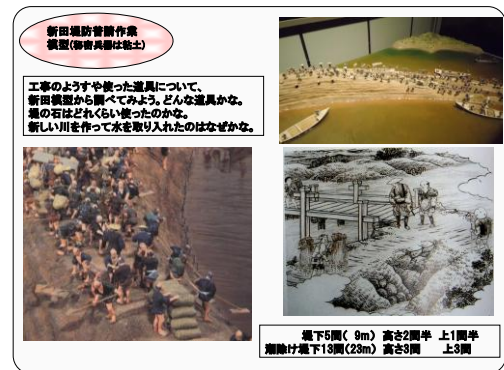
編集 発行 横浜市歴史博物館（2006年）

学芸員による夏季教員研修や秋の訪問授業

日程調整がつけば、学芸員による夏季研修や

資料をもつての訪問授業を実施。

学校連携担当（エデュケーター）による授業相談



### ②横浜都市発展記念館の見学

吉田新田がどのように開発されたかについて、博物館の職員が分かりやすく解説

吉田新田その後の開発についての解説・もっこ体験を取り入れた見学など



### ③新田跡の見学コース（実地踏査）を取り入れた授業展開例・・・見学コース紹介

i】潮除け堤コース 桜木町→関内駅→石川町駅へ 約1時間

ii】大岡川沿いコース 蒔田公園→大岡川→日ノ出町駅裏・土取りの碑へ 約2時間

iii】中村川コース 蒔田公園→中村川→石川町駅へ 約2時間

iv】旧 中川コース 蒔田公園→日枝神社→大通り公園→関内駅 約2時間

### ④その他 新田学習についてのご相談に応じます。

授業展開法や適切な資料の選びなどについての相談は・・・横浜市歴史博物館内

『横浜市ふるさと歴史財団総務課』学校連携担当まで 電話912-7771